

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092300088		
法人名	社会福祉法人 南八女福祉会		
事業所名	グループホーム 春の山		
所在地	福岡県八女市上陽町北川内182-1		
自己評価作成日	平成25年2月14日	評価結果確定日	平成25年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detail.2012.022.kan=true&i_gvosyoCd=4092300088-008Pr ef Ci=40&Versi onCi=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成25年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム春の山周辺には、歩いて受診できる距離に医療機関が2カ所あり、定期受診や緊急時の対応がとりやすくなっている。又、土曜日に賑わう土曜日、四季の景色を眺めることができる春の山公園があり、地域の方と関わる機会が多い。この恵まれた環境をいかし、安心・安全で落ち着いた生活を送れるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所名を「春の山」と言うように、四方を山に囲まれた、山あいの静かな所にある。直ぐ前を幹線道路が通っており交通の便がよく、道路を隔てて大型の園芸店や毎週土曜日が開かれている。近隣には春の山公園や水天宮がありドライブを楽しんでいる。隣には主治医のしばた医院や歯科医院があり、利用者が安心して利用できる立地環境である。施設玄関周りにはツツジやキンセンカが植えられ、施設横では家庭菜園を作り、チューリップやパンジーや、葱も植えられており収穫を楽しみにされている。施設中庭には広いテラスデッキがあり、中央に紅葉の木が植えられ、各ユニットから自由に入出入り出来、時々イスを出して、おやつなどを楽しんでいる。「家庭的な環境の中で地域とのつながりを大切に、ひとりひとりのあるがままを受け止めて、意向に沿った生活を支援します。」と言う理念の下、支援を行っており、今後も職員全体で研修等の体制を整え、全職員の能力向上に努め、更なるサービスの向上と発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) <input type="radio"/>	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) <input type="radio"/>
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) <input type="radio"/>	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) <input type="radio"/>
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) <input type="radio"/>	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) <input type="radio"/>	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) <input type="radio"/>	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33) <input type="radio"/>	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関と各ユニットに掲示している。業務優先になっていたり、職員の都合が優先になりつつある場合には、その都度、理念を基に伝えるようにしている。	施設理念は事業所開設時に管理者と職員で話し合っって作成され、「ひとりひとりのあるがままを受け止め意向に沿った生活を支援します」等を念頭に置き、職員間で注意しあいながら、日々の業務の中に取り入れている。月1回の定例会のときにも取り上げ、理念を振り返る機会を作っている。	月1回の定例会の時、理念を取り上げ振り返っているが、新入職員など、完全には施設の理念が言えない職員もいる。毎日の朝礼等で理念の唱和を行うことで、理念を共有し、実践につなげていく事が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員の定例会に参加させていただいている。職員や入居者が、図書館や店、歩いて利用できる土曜市等を利用し、地域の方との交流を図っている。民生委員より地域の行事案内が届くこともある。	利用者には地域の方が多く、施設近隣の病院受診時に顔なじみと会ったり、受診後に施設に立ち寄られたり、施設で図書館に行ったおりに、知り合いと話されたりと日常的な交流は多く行われている。	地域の方との交流は出来やすい環境にはあるが、地域での活動や行事等に参加出来ていない。今後は徐々に幼稚園や保育所等との交流を検討中であり、自治会の加入も踏まえて、行事などへの参加など積極的な交流が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、運営推進会議等で、認知症について事例発表をしていきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。24年度は、グループホーム春の山の中でどのように生活されているのか、どういった楽しみがあるのか知っていただくために、報告と行事参加をセットに実施した。少しずつ、意見や要望が増えてきている。	地域代表や管理者、職員が出席し開催している。意見は活発に出され、家族から冷暖房が直接利用者に当たるので改善して欲しいという意見が出て、直ぐ朝礼で話し合い対応したこともある。会議内容はその日の内に職員へ申し送り等で伝え、共有されている。	会議議事録は公開していない為、会議内容が開示出来る事を玄関などに掲示したり、請求書送付時に利用者の状況報告等を行って行き、運営推進会議に利用者や家族の参加の声掛けも行って行く事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者にも参加していただいている。地域密着型サービス連携会議に参加している。	管理者が、市主催のグループホーム、小規模のネットワーク会議に2回参加し、情報を得るように努めている。介護保険課が遠いため、更新手続きなどは郵送になっているが、空き情報の連絡などは密に連絡しあっている。また何か相談等がある時は、施設本部に相談する体制が取られている。	今までは管理者が相談したい時等は、施設本部にあるGHに尋ねていたが、今後は管理者が手続き等で市役所等に向いたときに市の職員や、包括支援センター等に事業所の現状報告や実績等を伝え、協力体制の構築を図って行く事が望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、勉強会を開催。全職員が理解できるまで、回数を重ねる必要がある。玄関は施錠しないが、出た直ぐが道路でもあるため、出入りに気づく工夫をしている。	施設前は交通量が多く、安全確保の為、玄関は2重ドアで内側のドアにセンサーを取り付けて対応しており、施錠はしていない。外に出かけようとする利用者には職員が付き添う介助を行っている。家族希望で自宅から持ち込んだベッドで夜間のみ四点柵を利用している利用者が1名おられる。	身体拘束の内部研修等は行っているが、やむを得ない場合の、身体拘束の同意書が無い為、同意書の作成と共に、経過観察記録作成と、排除に向けた取り組みや話し合いを定期的に行い記録して行く事が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催。入居者とゆっくり会話をする時間をつくっている。今後も努力が必要。		

自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者で利用はないが、以前入居希望者が利用中であった。介護未経験で入職してきた職員も多いため、勉強会を計画している。	利用者の中で今まで該当する方がいなかったものがあるが、必要時に、専門家への相談体制は出来ている。介護未経験者も多く、説明出来る職員が少ない為、今後の年間研修予定に組み入れられ勉強体制は出来ている。	年間研修は予定されているが、今後は外部研修にも積極的に参加して、内部研修にて共有を図り、具体的な事例を検討したり、家族等への情報提供を行って行く為にもパンフレットや資料等を置いておく事が望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけてひとつひとつ十分な説明を行っている。入居後も不明な点等遠慮なく尋ねていただくよう声かけしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面しやすい雰囲気作りや意見・要望を聞き取るために面会時、必ず近況報告を行っている。その、意見・要望はその日のうちに申し送り、検討が必要な内容はすぐに話し合いをしている。	玄関に意見箱を設置しているが、意見は入っていない状況の為、管理者が家族の来訪時に意見や要望を聞き取り対応している。帰宅願望が強い利用者には、毎日自宅まで職員が同行し、安心して貰ってから帰設するケアを最近迄続け、現在では落ち着いて入居生活を送れるようになった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	開設より半年経過時、職員ひとりひとりが意見を提出し、それに対して代表者が回答。月1回の定例会でも意見ができる。	新入職員に対しても、統一化した手順で介護を教えており、認知症ケア等の研修会に参加を促したり、職員間でも話し合い、よりよいケアに向けての取り組みを行っている。以前は2ユニットを管理者が一人で対応していたが、副主任をもう一人たてて運営するようになってから、なんでも相談しやすくなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設オープン1年を経過し、職員の適切な配置等を加味して、職場環境をさらに向上させたい。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別、資格による排除は行っていない。	20～60代と年齢も幅広く採用され、男性の職員も働いている。業務の中で、能力に応じて積極的に、仕事や作業活動等に取り組んでいる。ケアの仕方などで迷ったり、分からなかったりした時は、先輩の職員に相談しやすい環境である。休憩時間も1時間しっかり取れて、職員にとっても働きやすい職場となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回の定例会で関わり方や言葉遣いなど振り返る機会がある。	日頃のケアの中での言葉かけや、接遇マナーなどはお互い注意しあったり、月1回の定例会などでも年長者としての尊厳など話し合っている。管理者は人権教育の重要性を認識しており、今後、年間の研修予定に組み入れ、人権教育や啓発活動の外部研修や内部研修を取り入れていく予定である。	日頃のケアの中で、対応の仕方や、言葉遣いなど注意しあっているが、今後は啓発活動等のポスターを掲示したり、テキストや実務者研修等の資料も利用して、同和・人権について、研修を行って行く事が望まれる。

自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会を実施し、職員の質の向上とスキルアップに努めている。グループホーム部会などの外部の勉強会にも参加。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連携会議や部会の勉強会などに参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の聞き取り、入居後の聞き取りを管理者、計画作成担当者中心に行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者中心にできるだけ細かい情報収集を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の相談にじっくり時間をかけている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理方法や生活の知恵を聞いたり、職員は入居者から教わることも多い。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の協力を得たり、家族の声掛けに安心される場合には、電話対応していただいたりと、家族と職員、その他関わりのある方の協力を得ている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで、自宅で生活されていた方が多く、自宅に対して思いが強い方には、日々検討し、自宅を見に行く、見慣れた風景をドライブするなどの個別対応をしている。家族以外の面会者にもいつでも面会にきていただける雰囲気作りを気掛けている。	入居前の事業所のケアマネージャーや関係者から詳しい情報を収集している。以前からの理美容を利用されている方も3名おり、家族の面会も多く、病院受診後に立ち寄られる知り合いも多い。日頃の会話から馴染みの場所や、行きたい場所を聞いて、個別に対応したり、ドライブの途中に立ち寄りしている。長年畑仕事をされた方には、敷地内で職員と一緒に野菜作りをしている。	

自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有のば(リビング・食堂)での関わり方を観察し、席の配置等、考慮している。自然に入居者同士が助け合う姿をみることができる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人、家族からの聞き取りを行っている。	入居される前の詳しい情報を家族やケアマネジャー・関係機関からも聞き取り、情報収集を行い、個人台帳に記入している。更新時には家族や本人に意向の確認を行っている。会話の噛み合わない利用者は家族から意向や生活歴等を聞き取りし、本人の行動や言葉等でも判断し、職員間で話し合いを行い、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人、家族からの聞き取りを行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りを確実に行うようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と管理者が協力し、情報収集している。定例会では、時間をかけてひとりひとりについて話し合いをしている。	毎月1回、定例会議後に、ほぼ全職員から情報を共有し、モニタリングを行っている。計画担当者は、その情報の元に3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月に1回プランの見直し、サービス担当者会議を開催している。状態の変化、意向の変更時にはその都度対応している。	月1回のモニタリングのみで、毎日のプランに沿ったサービスの取り組みや実施状況の記載が無かったため、今後は担当者とプランを確実に実践出来る様に、実施状況を記録化される事に期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	未経験者も多くいるため、まずは細かいことでも記録することを徹底。定期的に記録の見直しを行っている。		

自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのすぐ横に協力医療機関があるが、本人、家族がそちらへの変更を希望されることもある。入居前からのかかりつけ医のまま継続される方も数名おられる。	直ぐ隣に提携の医療機関があり、医療連携が出来ており受診困難時は往診で対応できる。職員付添いで他科受診も可能である。非常勤の看護師がおり、状態の説明等の対応をしている。帰宅後は受診状況を聞き取り、記録に残し、職員全体で情報の共有出来る体制を取り、対応している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を十分に把握し、小さな変化でも記録し、詳しく伝えることができるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、面会に行き、看護師・SW等により情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、早急に努力が必要であると考えている。	今までにターミナルの方がいなかったのもあるが、重度化した時の対応指針が明確に定められてはいないが、家族と本人の意向を聞いて対応する事となっている。夜間は常駐の看護師がいない状況であり、早急の明文化が必要と計画しているところである。	家族と本人の意向を聞いて応ずることになっているが、重度化した時の方針を明確化したり、マニュアルを作成し、家族等の同意を文書に残して置くことを今後は期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っているが、実践力を身につけるために、今後も定期的に回数を重ねていきたい。		

自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を実施している。昨年、7月の水害で避難した経験から火災以外の災害対策も見直している。グループホーム火災で、地域との協力体制を考え、4月には地域も含めての訓練を検討している。	消防署立会いで避難訓練を実施しており、夜間を想定しての訓練も行っている。AEDも常備しており、非常口も4箇所あり、建物の防火設備は整っている。	今後は夜間の避難訓練に近隣地域を含めての避難訓練を予定されているとのことで、地域と協力した防災体制が作られていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前に、これまでの生活歴を聞き取り、それをスタッフに伝えることで、敬意をもった対応につなげている。	職員全体で利用者の生活歴や性格等の把握をしており、その方に合わせた声掛け、対応が取られている。言葉使いなどは、職員同士でも注意し合い、利用者の人格を尊重した声掛けを行っている。個人情報保護方針の同意書は契約時に交わされている。	今後、一人一人の尊厳やプライバシーの理解を深めていくために、研修や勉強会が行われることが望まれる。また、個人情報の扱いの観点から、利用者や家族に対しての写真や掲示物への利用に対しての説明や同意書がとられることにも期待したい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと傾聴するよう心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や職員の都合を優先しないようにすることは、日々意識するようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	数名は、入居前のいきつけの美容室へ行かれる。それ以外の方は、訪問美容に依頼しているが、自分の好みなどを自分で伝えられることも多い。 受診やその他の外出時等、衣類や整髪、目脂がついていないか等確認するように心がけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑より収穫し、味噌汁に入れようと言われれば急遽、変更することもある。キッチンに入って調理に加わる方、座って皮むきをされる方などできるところに参加していただいている。	栄養士が作成する献立表に基づき、栄養バランスの取れた食事が提供されており、利用者の要望や好みを取り入れて献立の変更も行っている。2日に1回の買物にはたまに利用者も同行し、新鮮な食材を購入しており、調理も出来る部分は手伝ってもらう。季節毎の行事食もあり、中庭でおやつを食べたり変化を持たせている。使い慣れた箸や茶碗、コップを使用されている方もいた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士より献立をたててもらい、調理師の資格を持っている介護職と連携している。晩酌が週間となっている方は、主治医に確認を取りながら適量を楽しまれている。		

自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	不十分だからと最初から全て職員がやってしまうのではなく、自分でできる部分は自分でしていただき、その後、不十分な部分を支援するようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居前はオムツ使用であった方でも、仕草を見てできる限りトイレでの排泄につなげている。	トイレは二部屋ごとに一箇所あり、身障者用トイレもユニットに二箇所設置されており、個別支援で排泄できる広さがある。排泄等を訴える事が出来ない利用者は、職員が動き等で察知し、トイレ誘導している。失禁時はさりげない声掛けで部屋まで誘導し、着替えを行う様にしており、介助によってオムツからリハビリパンツへ状態が改善された利用者もおられた。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を工夫したり、活動量を増やしたりしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を聞き、毎日入浴されている方もおられる。入居前、自宅では夜間入浴、温もった身体ですぐに寝たいという希望もあったが、職員数の都合で夜間帯の入浴希望だけは受けることができていない。	広い浴室であり、個浴で毎日でも入浴出来る。利用者に合わせた湯温に設定されており、好みのシャンプー等の使用や、広い浴槽で足をゆったり伸ばせて、入浴を楽しめるよう工夫されている。脱衣所は床暖房になっており、衣類の着脱時も寒い思いする事無く、快適に入浴出来る。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりにあわせた支援を心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、調剤薬局に相談できる関係性を構築している。処方内容の変更があった際は、変更後の状態観察をしっかり行い、次の受診時報告できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夫婦や入居前近所同士だったという方は、これまで通り夫の世話をされたり、お互いが気にかけて、園芸が好きだったかたは、買い物から世話までを中心されたりと、それぞれに支援している。		

自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰りたいと不安定になられる方には、予測されることを考えながら、毎日外出することもある、その他、住み慣れた場所のドライブや、花の時期には花見などに外出することで気分転換となるように随時計画している。	天気の良い日には職員同行で週1～2回近隣の散歩に出掛けている。土曜市の開催日には、希望した利用者2, 3人と一緒に、施設の送迎で買い物ドライブに行ったり、図書館に行ったりもしている。季節ごとに花見や紅葉見物等へも出掛け、外出を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者、家族管理と少額を金庫預かりとしているが、数名、少額を持たれており、使用されることもある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮、工夫の努力している。	明るく広い廊下で車椅子2台が軽く離合できる。リビングは床暖房で和室もあり、お雛様や職員や利用者の作品や写真が飾られている。2ユニットが左右対称で配置され、ユニット同士の交流が日常的に出来る作りになっている。台所はIH調理器を使用し、洗濯室には洗濯機が4台あり、いつでも利用可能である。廊下の壁には職員の名前が判る様に写真と名前が可愛く掲示されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配慮、自由に移動できるようにスペースの確保等心掛けている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや大切にされていた物などの持ち込みができることを伝えている。	ベットやクローゼットは部屋に備え付けで準備され、個人で家具等の持参も可能である。日頃、使い慣れた布団や枕を持って来られており、仏壇や家族の写真等が飾られたり、本人のお気に入りの品々が持ち込まれている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室と他者の居室を間違われる方には、目線にあわせて案内を貼り出すなどの工夫をしている。		